

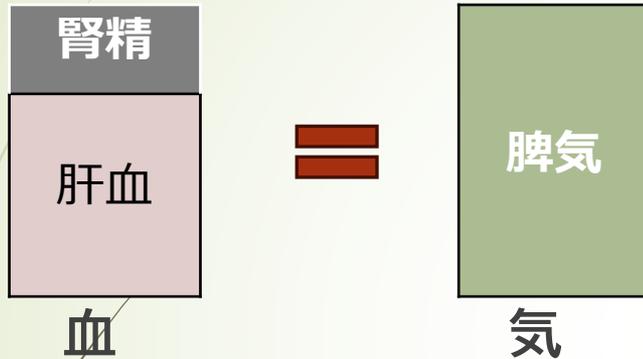
PMS、PMDDの弁証論治

- ・雞林東医学院にて梁哲周先生の薫陶を受ける
 - ・30歳でさくら堂治療院開設
 - ・33歳で「医道の日本」連載デビュー
 - ・命門会会長を経て三旗塾を興す
- 現在、三旗塾相談役、日本中医鍼灸研究会副会長
日本中医薬学会評議員、東京穴性研究会副代表
湘南医療福祉、東洋医療福祉専門学校非常勤講師
著書「中医鍼灸そこが知りたい」「問診のすすめ」など

月経後期から排卵前まで

1 子宮内の気血は等価（同量） 《D4～D12ぐらい》

血（肝血の余血） + （腎精（狭義）からの転化） = 気（脾の水穀精微由来の気）



血量の視点（肝余血 > 腎精転化）

血質の視点（腎精転化 > 肝余血）

2 血主導で気量が決まる

血が8なら気も8、血が9なら気も9

3 子宮の器は腎陰と関わる

○肝血の不足
※血の流入が遅・少
月経周期延長

○腎陰の不足
※子宮本体の容積が少ない
月経量減少

👉 精神、睡眠、食事

排卵時

・ 胞宮内気血等価の法則から気超過まで。

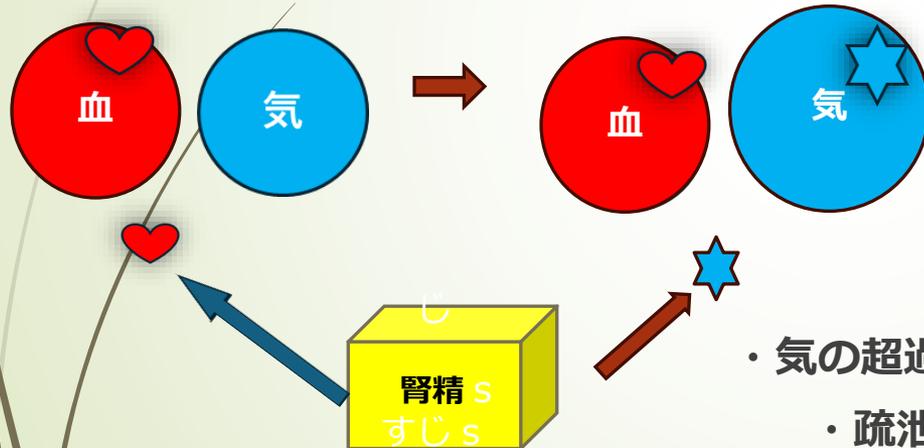
∴正常なら卵胞期：血（肝血+腎精）と同量の気（脾由来）

・排卵の少し前に血は適量に達する。

腎精が血から気へ一気の超過一肝の疏泄を呼び込む一これが排卵及び頸管粘液排出を促す一そして体温上昇に（参照図は胞宮内）

[血適量到達 D13]

[気の超過 D14~]



肝の疏泄

- ・ 頸管粘液排出
- ・ 胞宮内移動

脾の固摂、腎の封蔵

- ・ 気の超過レベルが高いほど適切な疏泄を呼び込む
- ・ 疏泄は胞宮内の気および胞宮本体の気原動力
- ・ 疏泄と固摂の絶妙なバランス
- ・ 胞宮内と胞宮本体は分けて考える。

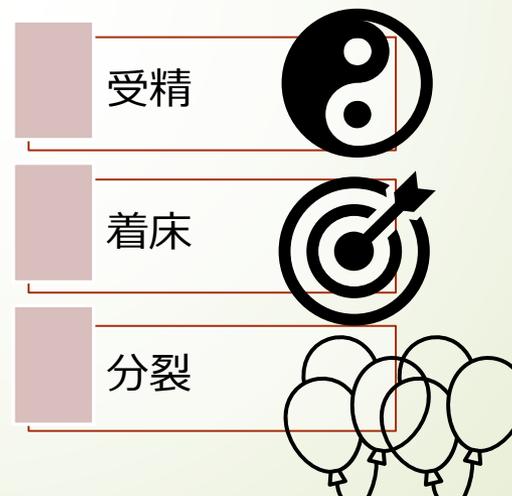
排卵～妊娠

気の超過が続く。

血は胎盤と繋がるまでの分があればよい。卵子と内膜の形成が主な役割。

気は肝の疏泄の力を借りつつ、増え続ける。その気の役割は受精（推動）、着床（推動）、細胞分裂（気化）などで大量の気が必要。

腎精からの転化を
含めた大量の気



妊娠しなかったらこの気はどうなる???

PMS、PMDD

PMS（月経前症候群）：周期性（月経前3日～10日）で起こる不快感の総称。

身体症状：浮腫み、頭痛、乳房脹痛、腰痛、易疲労など。

精神症状 イライラ感、抑鬱感、不安感など。

共通症状 睡眠障害

PMDD PMSのうち精神症状が突出したものをPMDDと呼ぶ。

- 肝経侵入 / 余剰の気が直に肝経に入る 🖐️ 気滞、炎上
- 胃経侵入 / 余剰の気が気街より胃経に入る 🖐️ 気滞、熱
※任脈は気街～胸部 🖐️ 乳房脹痛（生理現象）
- 腎経侵入 / 余剰の気が腎経に入るもしくは腎に留まる
🖐️ 気滞、熱、傷陰
- 二陰へ伝導

原因

余剰の気



非妊娠



余剰の気の上
亢、拡散



気街、肝経



どの経に逆伝



症状

余剰の気は停滞、熱、傷陰する

弁証と配穴

肝経侵入 胸脇部+頭部+精神	乳房脹痛、 イライラ感 、 抑鬱感 、頭痛、めまい、ほてり、口渇 肝脾不和-食欲不振。心肝火旺-入睡困難、 情緒錯乱 。痰気鬱結- 抑鬱感 、支膈（胸の痞え）、咽喉の違和感
気を巡らせ熱を取る 清熱行気	肝兪—中封（標本）大敦—玉堂（根結）、行間・太衝（清熱） 疏通乳絡-下巨虚 心に及ぶ—心兪、角孫、糸竹空、化痰—豊隆、巨闕、人迎
胃経侵入 脾胃+顔面、咽喉	食後腹満、食欲増進、口渇喜冷飲、饒舌、 躁状態 。脾胃湿熱-頭重、浮腫、痰気鬱結- 抑鬱感 、支膈（胸の痞え）、咽喉の違和感
気を巡らせ熱を取る 清熱行気	人迎—厲兌（標本）厲兌—承泣（根結）、内庭・解谿（清熱）
腎経侵入~傷陰 腰以下+咽喉	腰痛、立ち眩み、口乾、浅眠、夜中足熱、 心煩（ザワザワ感、焦燥感、不安感）
気を巡らせ熱を取る 清熱行気	腎兪、廉泉—照海、復溜、交信（標本）湧泉—廉泉（根結） 然谷・大鍾（清熱）
衝脈—二陰へ	便硬、頻尿
気を巡らせ熱を取る 清熱行気	水泉、横骨、気穴

標本配穴 やや清熱的

根結配穴 やや行氣的

分類	感覚	説明
重	ズーンと重い	深部に響くような重だるさ
麻 1	ジワジワと広がる	温感やしびれ感が周囲に広がる
麻 2	ピリピリとする感覚	軽く電気が走る感じ
酸	ズキズキする	連続的かつ小刻みな感覚、微痛
脹	グーッと圧迫される	内部から押される感覚
補瀉論	分類	
補法	重、酸（臓腑対象）、麻 1（経絡対象）	
瀉法	脹（臓腑対象）、麻 2（経絡対象）	